

2. 人文科学研究科

(1) 人文科学研究科の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	2-2
(2) 「教育の水準」の分析	・ ・ ・ ・ ・	2-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・	2-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・	2-9
【参考】データ分析集 指標一覧	・ ・ ・ ・ ・	2-11

(1) 人文科学研究科の教育目的と特徴

1. 本研究科は、幅広い教養と人文科学についての高度な専門的知識を活かし、高い倫理観に基づき、主体的に行動することを通じて、人文科学を発展させるとともに、その成果を活かして現代社会の諸要請に積極的に対応できる人材を育成することを目的とする。
2. 本研究科の教育の特徴は、哲学、歴史、言語、文学、文化等を対象とする人文学の伝統的な分野のみならず、現代的諸課題を扱う分野も加えた多様な研究分野が、それぞれの独自性を明確に保ちつつ共存している点にある。とりわけ、考古学、文化人類学、人文地理学、朝鮮言語文化、ロシア言語文化などは地方の国立大学には設置されることが少ない研究分野であり、北陸地域においてこれらの分野についての高度で専門的かつ体系的な教育の場を提供していることは本研究科の大きな特徴である。これらの分野の専門的知見は社会全体にとっては不可欠のものであり、そうした教育を受けた人材が完全に途絶えてしまったときには、再び養成することは容易ではない。社会からの需要が恒常的にあるとは言い難いこれらの分野の教育・研究を維持し発展させることは国立大学法人こそが負うべき責務であり、本研究科は今後もその責務を果たす役割を担う。
3. 本研究科の教育はまた、個々の研究分野における専門深化を志向する教育を基本としつつ、複数分野の有機的連携による学際的視点を取り入れていることもその特徴とする。このような教育を可能にするため、研究の対象・素材・手法の親和性に基づいて3領域（①思想・歴史文化、②行動・社会文化、③言語文化）を設定し、その下に15研究分野を配置している。その結果、学生の多様な知的関心に柔軟に対応し、必要に応じて多様な研究分野を横断する形で複数の教員がひとりの学生を指導できる体制となっている。さらに、人文学部の学士課程における教員組織が平成30年度から3領域に再編されたことにより、人文科学研究科の3領域体制は、学士課程と修士課程の関連を可視化することにもつながっている。
4. 個々の研究分野及び領域での指導に加えて、研究科全体として以下の学修支援の取り組みを行っている。
 - 院生報告会、院生論集の学生主体の編集・発行などの機会を設け、高度なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の養成を図っている。
 - 共同利用の院生研究室を4室設け、パソコンとインターネット環境、個別の机を提供している。
 - 院生の学会発表を奨励するべく、学会発表のための旅費及び宿泊費を支援している。
 - 留学生に対しては、日本語による論文作成能力を向上させるため、専門スタッフによるアカデミック・ライティングの個別指導を実施している。
 - 社会人の院生には、昼夜・休日開講や長期履修制度等を整備し、修学の便宜を図っている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された学位授与方針（別添資料 3702-i1-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・公表された教育課程方針（別添資料 3702-i1-1（再掲）、3702-i1-2（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・体系性が確認できる資料（別添資料 3702-i3-1～3）
- ・自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 3702-i3-4）
- ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 3702-i3-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 3702-i4-1）
- ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 3702-i4-2～4）
- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3702-i4-5）
- ・インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 3702-i4-6）
- ・指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

富山大学人文科学研究科 教育活動の状況

- 『人文科学研究科履修の手引き』等で大学院での研究指導プログラムを示すことにより、入学から修士論文作成を経て修了するまでの過程を、入学時点から学生に周知している（別添資料 3702-i3-3（再掲））。授業科目としては「特論」「特論演習」「課題研究」の3つにより、修士論文を完成させるための必要な能力を身につけさせている。1年次の「特論」では、人文科学の各分野の基盤的な概念や方法論などを、2年次以降の「特論」では、自らの専門分野の専門的な知識や方法論などを学習させている。「特論演習」では、文献・史料などの高度な読解力及び実験や調査の手法、資料の分析方法などを修得させている。「課題研究」では、文献や資料の扱い方、研究や調査の手法、修士論文の書き方等を修得させるとともに、新たな知見の獲得、価値の創造に導く学修指導を行っている（別添資料 3702-i1-2（再掲））。[4.5]

＜必須記載項目 5 履修指導、支援＞

【基本的な記載事項】

- ・履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 3702-i5-1）
- ・学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 3702-i5-2）
- ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 3702-i5-3）
- ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 3702-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- GPAにより、学生が自ら学修状況および学修成果を把握できるようにするとともに、オリエンテーション等を通じてカリキュラムの体系性やCAP制及びGPAの趣旨を院生に十分に説明することにより、明確な目的意識をもった授業履修や授業時間外の学習の重要性を周知している（別添資料 3702-i5-5）。[5.1][5.2]
- 4部屋を大学院生研究室としている。各部屋は2、3名の院生の共同利用とし、パソコンとインターネット環境、個別の机を提供している（別添資料 3702-i5-6）。[5.1]

＜必須記載項目 6 成績評価＞

【基本的な記載事項】

- ・成績評価基準（別添資料 3702-i6-1～2）
- ・成績評価の分布表（別添資料 3702-i6-3～4）
- ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 3702-i6-5～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

＜必須記載項目7 卒業（修了）判定＞

【基本的な記載事項】

- ・卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 3702-i3-5（再掲）、別添資料 3702-i7-1）
- ・卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 3702-i7-1（再掲）、別添資料 3702-i7-2）
- ・学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 3702-i7-3～5）
- ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 3702-i7-6）
- ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 3702-i7-3（再掲）、別添資料 3702-i7-4（再掲））

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 指導教員（正）は主査1名、副査2名の学位論文審査委員候補者を研究科長に推薦して審議を受け、研究科委員会の承認で得たうえで審査にあたる。審査結果は最終試験報告書によって研究科長に報告し、研究科委員会での審議を受けたうえで認定を受ける。このように、複数名による論文審査を厳正な手続きによって実行している（別添資料 3702-i7-4（再掲））。[7.1]
- 学位論文審査終了後に大学院生研究成果報告会を行うことによって、研究成果の発信を行うとともに、プレゼンテーション能力の育成を行っている（別添資料 3702-i7-7）。[7.0]

＜必須記載項目8 学生の受入＞

【基本的な記載事項】

- ・学生受入方針が確認できる資料（別添資料 3702-i1-1（再掲）、3702-i1-2（再掲））
- ・入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・入学定員充足率（別添資料 3702-i8-1）
- ・指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 平成29年度に入学定員を満たさなかった状況をふまえ、入試種別および定員の見直しを行った。平成29年度までは、一般入試（8名）、社会人特別入試（若干名）、外国人留学生特別入試（若干名）だったが、平成30年度からは、一般入試と

富山大学人文科学研究科 教育活動の状況

社会人入試を統合したうえで前期日程（6名）と後期日程（2名）とに分け、さらに外国人留学生特別入試（若干名）に加えて外国人留学生特別入試（指定校推薦、若干名）を開始した。志願者数は11名（平成28年度）、8名（平成29年度）、11名（平成30年度）、12名（平成31年度）であり、入学者定員充足率は入学定員の113%（平成28年度）、75%（平成29年度）、113%（平成30年度）、100%（平成31年度）となっており、いずれも平成30年度以降は改善されたといえる。新規入学試験種別に関してみると、一般・社会人入試後期日程の志願者数は5名（平成30年度）、5名（平成31年度）、7名（令和2年度）、外国人留学生特別入試（指定校推薦）の志願者は2名（平成30年度）、3名（平成31年度）、2名（令和2年度）となっており、機会の増大によってニーズをとらえていると考えられる（別添資料 3702-i8-2）。[8.1][8.2]

- 在学生における留学生の人数（比率）は、平成28年度7名（41.2%）、平成29年度7名（38.9%）、平成30年度5名（26.3%）、令和元年度7名（30.4%）となっており、一定数を確保している。既に述べた外国人留学生特別入試（指定校推薦）を新規に設けたこと、またそれをオンライン面接によって現地に行かずに行っていることが、安定した留学生の受け入れに貢献していると考えられる（別添資料 3702-i8-3）。[8.1][8.2]

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 3702-i4-5（再掲））
- ・指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 毎年度、東アジアを中心とする諸地域から一定数の留学生を受入れている。平成30年度からは外国人留学生特別入学試験（指定校推薦）を開始し、インターネットを活用した面接など現地に行かずとも負担の少ない方法で優秀な学生を入学させることに成功している（別添資料 3702-iA-1）。[A.1]
- 外国人留学生および海外に留学する学生を対象とした人文学部・人文科学研究科独自の奨学金制度等により、国際交流を促進している（別添資料 3702-iA-2）。その結果、外国人留学生を受け入れるだけでなく、平成29年度から平成30年度にかけてロシア言語文化を学ぶ大学院生がロシア・ノヴォシビルスク大学に留学している。[A.1]
- 年度平均で34%の学生が留学生であり（別添資料 3702-i8-3（再掲））、半数程度の授業において留学生が日本人学生・教員と関わる国際的な授業環境としている（別添資料 3702-iA-3）。[A.1]

- 2018 年、本研究科から大学院生（留学生）1 名の研究指導をブラジル・サンパウロ大学人文学研究科に委託し、留学の環境を整えることで研究調査の支援を行った（別添資料 3702-iA-4）。それにより、ブラジル日系人社会において方言を伴う日本語が保持されている現象についての研究が実現し、当地の富山県人会との交流も行われた。[A. 1]

＜選択記載項目 B 地域連携による教育活動＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

＜選択記載項目 C 教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 人文学部と合同で行っている FD 研修会において、近年増加している学生本人のメンタルヘルス上の問題による留年や退学等への対応を積極的に取り上げることで、大学院においても様々な背景を持つ学生の指導に対応している。また、大学院生の研究倫理指導にも対応するため、平成 28 年度から著作権等に関する FD 活動も行っている。さらに、令和元年には「人文科学研究科の現状と課題」と題して、現行の制度の問題点を教員が共有するための FD 研修会を行った。教員の参加率は総じて高く、概ね 90%を超えている（別添資料 3702-iC-1）。[C. 1]

＜選択記載項目 D リカレント教育の推進＞

【基本的な記載事項】

- ・リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所（別添資料 3702-iD-1）
- ・指標番号 2、4（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 本研究科では、社会に開かれた大学院を目指し、社会人に配慮した指導体制をとっている。具体的には、社会人学生の職業や社会生活に柔軟に対応するために、昼夜開講制度や長期履修制度を導入している（別添資料 3702-iD-1（再掲）、3702-iD-

富山大学人文科学研究科 教育活動の状況

- 2)。2017 年度及び 2018 年度には各 1 名の現役の博物館学芸員が入学し、現在 1 名が在籍している（別添資料 3702-iD-3）。また、科目等履修生等も毎年度受け入れを行っている（別添資料 3702-iD-4）。[D. 1]
- 2017 年度から人文学部教員による公開研究交流会「富山循環型『人文知』研究プロジェクト公開研究交流会」（「人文知」コレgium）を開催し、研究の方法と現状の理解促進のため、大学院生の参加を推奨している（別添資料 3702-iD-5）。[D. 1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

＜必須記載項目 1 卒業（修了）率、資格取得等＞

【基本的な記載事項】

- ・標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 3702-ii1-1）
- ・「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 3702-ii1-1（再掲））
- ・指標番号 14～20（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修士課程における標準修業年限内の卒業率は、2016 年度から 2019 年度においては平均 63.6%である。また、「標準修業年限×1.5」年内の卒業率は、2016 年度から 2019 年度において平均 75.0%である（別添資料 3702-ii1-1～8）。[1.1]
- 留年者数は、2016 年度から 2019 年度において平均で 3.3 名である。退学者数は、平均で 0.5 名である（別添資料 3702-ii1-9）。[1.1]
- 中学校及び高等学校教員免許取得者数は、2016 年度に 1 名、2017 年度に 2 名、2019 年度に 1 名であった。（別添資料 3702-ii1-10）。[1.2]

＜必須記載項目 2 就職、進学＞

【基本的な記載事項】

- ・指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016～2018 年度において、公務員や教育・学習支援業などの業種・職種に就職している（別添資料 3702-ii2-1）。[2.1]

＜選択記載項目 A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取＞

【基本的な記載事項】

- ・学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 3702-iiA-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了時に実施している学生からの意見聴取の結果、教育体制の「研究設備・研究環境」及び「奨学金等の支援」については、平成 29 年度修了生 8 名及び同 30 年度修了生 3 名の全員が「満足」又は「やや満足」と回答している。院生研究室を 4 室設け、パソコンとインターネット環境、個別の机を提供するとともに、院生の学会発表のための旅費及び宿泊費を支援する取組み等が評価されたと考えられる。

「カリキュラム」及び「指導体制」については、平成 29 年度修了生 8 名中 7 名及び同 30 年度修了生 3 名全員が「満足」又は「やや満足」と回答しており、修了生の

富山大学人文科学研究科 教育成果の状況

ほとんどが肯定的に評価している。

教育成果の「研究能力」「課題設定・自主的な研究遂行能力」「人文科学に関する豊かな知見」については、平成 29 年度修了生 8 名及び同 30 年度修了生 3 名の全員が「身についた」又は「ある程度身についた」と回答しており、修了生の全員が十分な教育成果があったと評価している。[A. 1]

<選択記載項目 B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料なし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<選択記載項目 C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料なし）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号 8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。